

新型コロナウイルス感染症対策

新生児特別定額給付金として 10万円を支給します

子育て世帯緊急支援事業として国の特別定額給付金の対象とならない令和2年4月28日以降に出生した新生児を育てる家庭への経済的支援を目的として新生児特別定額給付金を給付します。

●給付対象児

- ・令和2年4月28日から令和3年3月31日までの間に出生した新生児で、日野町の住民基本台帳に記録されている児。

- ・新生児の父または母が令和2年4月27日から申請日まで引き続き日野町の住民基本台帳に記録されている児。

※給付を受けていただくためには申請が必要となりますので、詳しくは子ども支援課までお問い合わせください。



◆問い合わせ先 子ども支援課 ☎0748-52-6583

青雲之志

～町長コラム～

日野町長 堀江 和博

秋冷がさわやかに感じられる今日この頃ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。町長に就任をさせていただいて、今月で3か月目に入りました。この間、新型コロナウイルス感染症拡大への対応をはじめさまざまなことがありましたが、無事に職務を務めさせていただいております。9月1日には日野町議会9月定例会が開会され、私自身初めての定例会であったことから緊張の連続でしたが、無事に閉会を迎えることができました。

さて、今議会には、新型コロナウイルス感染症対策に関する予算を新たに計上させていただきました。まず、定額給付金（1人10万円）事業について、これまで対象となる新生児については今年4月27日までに生まれた方が対象でしたが、町独自に今年4月28日から来年3月31日までに生まれた新生児も対象として給付します。

また、10月1日から始まるインフルエンザ予防接種について、県の補助金を活用して、高齢者と中学3年生以下の子ども、妊婦の皆さんには個人負担の軽減として1,000円の補助を実施します。私たちに身近な各公民館や保健センターにおいても、トイレ等に自動洗浄・自動消灯の機能を追加することで、極力、手で触れる部分を減らすようにしていきます。

そして、選挙公約の一つでもありました「ふるさと納税制度」を活用した日野町の特産品・農産品のPRに関する予算も計上しました。日野町には美味しいお米や近江牛、日野菜をはじめ魅力的な産品が多くあります。日本全国の方々に日野町の魅力を知っていただくとともに、この機会を通して、日野町に興味を持っていただき、関係人口の増加につなげていきたいと考えています。新型コロナウイルス感染症拡大の中で、地元経済に少しでもプラスになればとも考えており、コロナ禍を乗り越え、町を盛り上げる良いきっかけにしたいと思います。

温故知新

日野歴史探訪

私達の住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化でいろどられています。
温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字原

大字原は、東桜谷地区の東端・竜王山の北西麓、桜谷を貫く日野川の支流佐久良川の最上流部に位置しています。

中世の古刹・万徳寺

東近江市にある藤切神社所蔵の応永二(一四二一)年三月二十八日の奉加記録に「六百文 原」と記されており、この時期にはすでに村としての形を整えていたことがうかがえます(『東櫻谷志』)。

現在会議所のある所には、江戸時代まで万徳寺という寺院がありました。室町時代後期の文明二(一四七〇)年冬、兵火にかかって焼失しましたが、同年六月に再建されました。この再建に深く関わったのが、京都五山を代表する文学僧・京都相国寺

の横川景三です。当時、横川は応仁の乱の戦火を避けて、佐久良谷から永源寺一带の領主であった小倉実澄を頼って永源寺に滞在していました。

横川の著書である『小補東遊統集』には万徳寺再建にあたり地蔵尊開眼の導師を勤めたことが記されています。現在会議所に祀られている地蔵尊はこの時のものと思われま

す。原の会議所には、この地蔵尊のほか、町内では珍しい馬頭観世音菩薩像や千体地蔵尊が祀られており、原村の歴史の重みと村人の信仰の篤さを物語っています。

明治の大型地籍図

大字原には、4.1メートル×2.8メートル、縮尺六〇〇分の一の大型絵図が残されています。一般に「壬申地券字引絵図」と称されるこの絵図

は、明治政府が地租改正に先立って村(現在の大字)ごとに作成を命じたものです。

絵図は彩色で、「田地・道・水・畑・木荒・藪・涌水・草荒・村・木山」ごとに色分けして描かれています。田地は黄色、川は水色といったように、実際の風景のイメージに近い色が用いられており、当時の土地利用状況を視覚的に知ることができる貴重な資料です。

絵図の中央には西流する佐久良川が太く描かれています。集落は村域の西端に形成されており、「田地(耕地)」は、集落の南側・佐久良川の左岸に広がっています。また川原村との境に位置する丘陵上の高台にもまとまった田地があり、江戸時代後期に開発されたと考えられます。

字域北部・南部には広大な山地が広がっています。集落近くの里山は柴を採る山として利用されました。

図中の山地部分には松の木が絵画的に描かれており、貴重な資源であったことがうかがえます。
なお、この地図には村域東部に広がる三峰の山が描かれておりません。江戸時代、三峰山は東桜谷の村々が共同で利用する入会山でしたが、江戸時代の中ごろから三度にわたる争論が起きました。三峰山が描かれなかったのは、明治初年の段階では権利関係が整理されていなかったためと考えられます。現在、三峰山西側の山林は、三峰南山生産森林組合の所有となっています。



▶原村の壬申地券字引絵図